

2016年11月30日

経済レポート

2016年10月の鉱工業生産指数の結果

～10月の鉱工業生産指数は前月比+0.1%の上昇～

調査部 主任研究員 中田一良

10月の鉱工業生産指数の結果

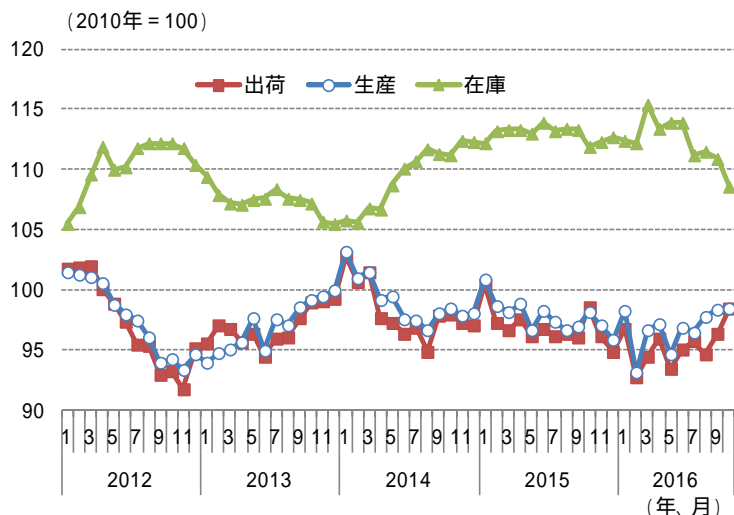
10月の鉱工業生産指数は、前月比+0.1%と3か月連続で上昇した(図表1)。製造工業生産予測調査では10月は前月比+1.1%の上昇が見込まれていたものの、それを下回る結果となった。出荷指数は、前月比+2.2%と上昇が続いた。在庫指数は前月比-2.1%と2か月連続で低下し、2014年4月以来の低い水準となった。

10月の生産指数の動向を業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、化学工業(除く医薬品)などは低下したものの、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業などは上昇した(図表2)。電子部品・デバイス工業ではスマートフォン向けのメモリなどが、輸送機械工業では乗用車などが、それぞれ上昇に寄与した。

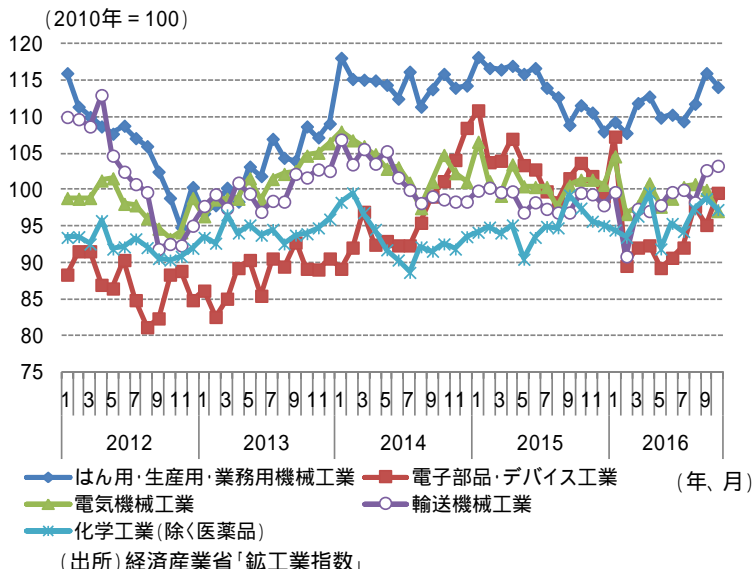
財別では、資本財(除く輸送機械)は前月比-1.1%と3か月ぶりに低下したものの、建設財は橋りょうなどを中心に前月比+3.8%、耐久消費財は乗用車を中心に同+1.3%、鉱工業生産の5割を占める生産財は同+0.1%とそれぞれ上昇した。非耐久消費財は前月比0.0%と横ばいだった。

10月に大きく低下した在庫指数の動向を業種別にみると、輸送機械工業は前月比-11.0%と低下し、2013年12月以来の低い水準となったほか、電子部品・デバイス工業は同-4.5%と低下し、2010年7月以来の低い水準となった。また、高水準にある、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業も低下するなど、機械工業を中心に低下した。

図表1 生産・出荷・在庫の推移



図表2 業種別の生産動向



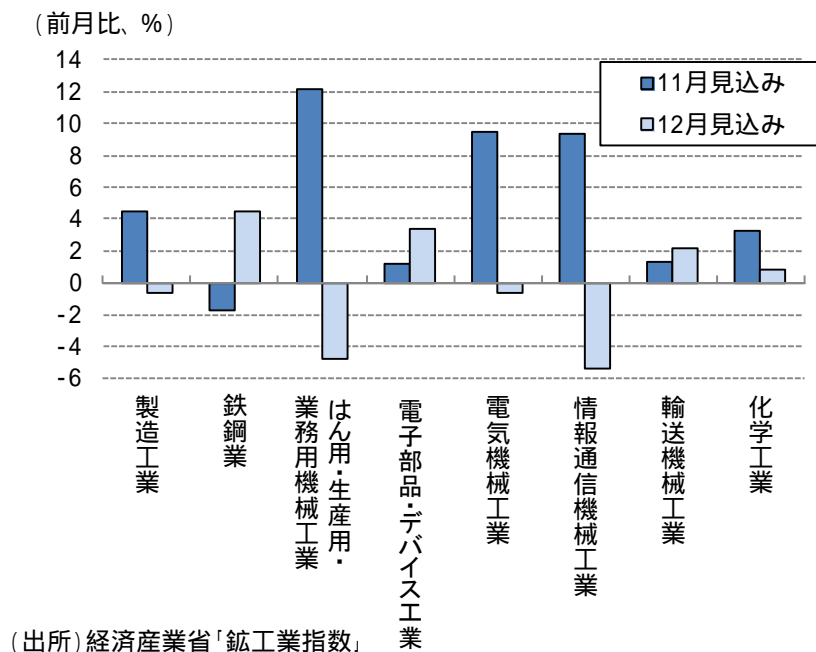
今後の見通し～製造工業生産予測調査の結果

11月の製造工業生産予測調査によると、製造工業は、11月は前月比+4.5%と上昇するものの、12月は同-0.6%と低下する見込みとなっている(図表3)。

業種別にみると、11月は鉄鋼業以外の業種で上昇する見込みとなっている。中でも、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、情報通信機械工業は、いずれも非常に高い伸びとなっている。もっとも、これらの業種では、実績は予測を下回る傾向がみられる。こうしたことを考慮すると、全体では11月は、上昇率は製造工業生産予測調査の結果を下回るものの、上昇すると見込まれる。

12月は、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、化学工業などは上昇が続き、鉄鋼業なども上昇すると見込まれている。他方、11月に大幅な上昇が見込まれている、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、情報通信機械工業などは低下する見込みとなっている。

図表3 製造工業生産予測調査による今後の見込み



ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。